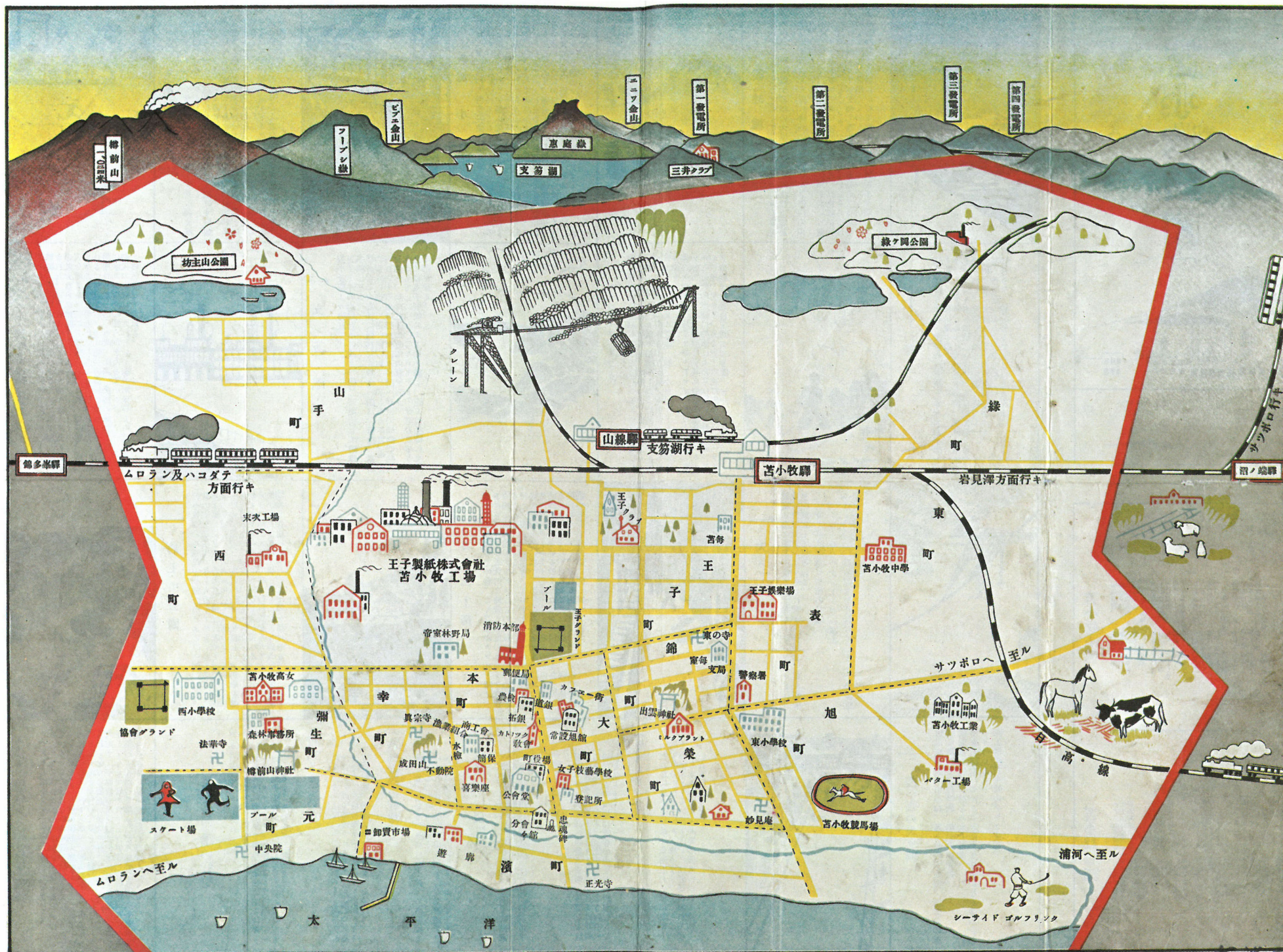




笠牧市史

下
卷

笠
小
牧
市

市
旗



人間環境都市宣言像





小牧市街全景（昭和51年）〔志方孝之氏蔵〕



駅裏から見た苫小牧市街地（昭和50年）〔苫小牧市史編さん室蔵〕



糸井団地（昭和49年）〔苫小牧市史編さん室蔵〕



市営樽前放牧場（昭和48年）〔苫小牧市広報課蔵〕



浜弁天の漁場（昭和48年）〔堀江敏夫蔵〕



一条銀座商店街（昭和49年）〔苫小牧市広報課蔵〕



市場にて（昭和48年）〔市広報課蔵〕



青果市場にて（昭和49年）〔市広報課蔵〕



スーパーにて（昭和50年）〔市広報課蔵〕



デパートにて（昭和48年）〔市広報課蔵〕



写生中の小学生（昭和50年）
〔苫小牧市史編さん室蔵〕



建設中の苫小牧東高校
（昭和49年）〔堀江 敏夫蔵〕



学校給食（昭和50年）
〔苫小牧市広報課蔵〕



総合体育館とサッカー試合（昭和50年）〔苫小牧市広報課蔵〕



ハイランドスケートセンター（昭和50年）〔堀江敏夫蔵〕



女子アイスホッケー試合
(昭和51年) [堀江敏夫蔵]



チビっ子アイスホッケー試合
(昭和50年) [苫小牧市史編さん室蔵]



ママさんバレー大会(昭和49年)
[苫小牧市史編さん室蔵]



高校野球大会(昭和50年)
[苫小牧市広報課蔵]



ウトナイ観光地（昭和49年）〔苫小牧市広報課蔵〕



港まつり（昭和48年）
〔苫小牧市広報課蔵〕



スケートまつり（昭和50年）〔市広報課蔵〕



桜まつり（昭和50年）〔市広報課蔵〕



樽前山神社まつりのみこし渡し
(昭和50年) [堀江敏夫蔵]



樽前山神社 (昭和48年)
[苫小牧市史編さん室蔵]



苫小牧市民会館 (昭和48年) [苫小牧市史編さん室蔵]



西町污水处理場（昭和48年）
〔苫小牧市史編さん室蔵〕



勇振川取水場（昭和48年）
〔苫小牧市史編さん室蔵〕

清掃センター（昭和50年）
〔苫小牧市広報課蔵〕



高丘墓地（昭和48年）
〔苫小牧市史編さん室蔵〕



火葬場（昭和48年）
〔苫小牧市史編さん室蔵〕



末広高層公営住宅（昭和50年）〔苫小牧市史編さん室蔵〕



糸井地区公営住宅（昭和50年）
〔苫小牧市広報課蔵〕



錦岡地区公住宅住（昭和50年）
〔苫小牧市広報課蔵〕

埋立てのはじまった佐羽内沼
(昭和49年) [堀江 敏夫蔵]



埋立が進む高丘奥地
(昭和49年) [堀江 敏夫蔵]



静川台地から見た東部勇払原野
(昭和49年) [堀江 敏夫蔵]





フェリーの入った苫小牧港（昭和50年）〔苫小牧市広報課蔵〕



漁港風景（昭和50年）〔市広報課蔵〕



車両船（昭和48年）〔堀江敏夫蔵〕



洋紙の積み込み（昭和45年）〔市広報課蔵〕



石炭埠頭（昭和50年）〔市広報課蔵〕



海上から見た苫小牧港（昭和51年）〔志方孝之氏蔵〕



苫小牧港と苫小牧市街地（昭和51年）〔志方孝之氏蔵〕

例言

一、本史は苦小牧市史下巻とし、上巻に引き続き、経済史、社会・文化史、交通・通信史、公安・災害史、港湾・建設史、部落史、の六編から構成し、一部を除き昭和五十年三月末までの史実を集録、本巻をもって通史を完了とする。

二、本巻は苦小牧市市史編さん室の堀江敏夫編集長が主に執筆、神田正五編さん員、近江謙三、金田隆一、畑宮清一郎、多田犬一の各調査員が一部執筆にあたり、各原稿の構成、加筆、一部削除は編集長、編さん員があたった。

三、漢字は本文においては当用漢字を、引用文献については出来るだけ原文のままとした。なお、専門語、時代用語などはそのまま生かした。

四、引用文等は「」で囲み、あるいはやや小さな文字を用いて字下げを行い、本文と区別した。また、句読点、濁点等を付して読みやすくすることにつとめた。

五、引用文、図表、写真には、その出典、文献名、所有者、年次を表記するほか、一部引用、参考文献などについては注記を付した。

苫小牧市史 下巻

六、本史本文に集録した人々は、その性格からすべて敬称を省いた。

七、付編部落史については、特異なものであり、本編とは区別し、その記述を自由にした。したがって、本編と重複する点もあるが、これを尊重し掲載した。

八、本史本編については北海道大学名誉教授・北海学園大学学長高倉新一郎博士に監修をうけた。

昭和五十一年三月三十一日

苫小牧市史編集長

堀江敏夫

目
次

目
次

苦
小
牧
市
史
下
卷

第七編 経済史 33

第一章 商業と経済の変遷 35

第一節 商業 35

一、明治時代の商業 35

二、大火と商店街の移動 47

三、昭和恐慌と商業 65

四、統制経済下の商業 92

五、自由経済下における商業の発達 101

第二節 会社と経済団体 146

一、会社の変遷 146

二、消費経済 169

三、経済団体 176

第三節 遊郭の変遷 186

一、戦前の遊郭 186

二、戦後の遊郭 207

第二章 金融機関の発達 209

第一節 銀行と金融機関 209

一、戦前における金融機関 209

二、戦後における金融機関の発達 222

第二章 質屋の変遷……………	245
一、戦前における質屋……………	245
二、戦後における質屋の発達……………	252
第八編 社会・文化史……………	251
第一章 教育と文化……………	263
第一節 学校教育……………	263
一、義務教育制度の変遷……………	263
二、学務委員と教育委員会……………	301
三、幼児教育……………	314
四、各小中学校の沿革……………	324
苦小牧市立苦小牧西小学校……………	324
苦小牧町立覚生尋常小学校……………	333
苦小牧市立勇弘小学校……………	338
苦小牧市立沼ノ端小学校……………	346
苦小牧市立植苗小学校……………	353
勇振簡易教育所……………	360
公立覚生尋常小学校所属錦多峰特別教授場……………	361
公立美々尋常小学校……………	363
苦小牧市立静川小学校……………	364

苦小牧尋常高等小学校所属遠淺特別教授場	369
苦小牧市立苦小牧東小学校	370
苦小牧市立錦岡小学校	378
植苗尋常小学校所属三百万坪特別教授場	385
苦小牧市立樽前小学校	386
苦小牧市立柏原小学校	391
苦小牧市立丸山小学校	398
苦小牧市立若草小学校	401
苦小牧市立北光小学校	405
苦小牧市立緑小学校	409
苦小牧市立大成小学校	413
苦小牧市立清水小学校	416
苦小牧市立美園小学校	420
苦小牧市立日新小学校	423
苦小牧市立糸井小学校	425
苦小牧市立苦小牧東中学校	427
苦小牧市立弥生中学校	431
苦小牧市立勇弘中学校	435
苦小牧市立凌雲中学校	437
苦小牧市立植苗中学校	441

苦小牧市立沼ノ端中学校	443
苦小牧市立樽前中学校	447
苦小牧市立和光中学校	449
苦小牧市立啓北中学校	452
苦小牧市立光洋中学校	455
苦小牧市立開成中学校	457
五、中等学校と高等学校	463
北海道苦小牧工業高等学校	472
北海道苦小牧東高等学校	488
北海道苦小牧西高等学校	511
北海道苦小牧勇弘高等学校（定時制課程）	523
北海道苦小牧南高等学校	526
原学園苦小牧中央高等学校	527
駒沢大学附属苦小牧高等学校	530
六、高等専門学校と大学の沿革	534
苦小牧工業高等専門学校	360
苦小牧駒沢短期大学	538
第二節 各種学校と教育関係機関の変遷	540
一、戦前における各種学校	540
二、戦後における各種学校	559

三、教育関係機関	564
第三節 社会教育	575
一、戦前における社会教育団体	575
二、戦前の社会教育施設	579
三、戦後における社会教育	581
四、社会教育施設	589
第四節 文化活動	604
一、文化・文芸活動	604
二、文化財	617
第五節 スポーツと報道機関	621
一、スケート	621
二、野球	659
三、柔道	665
四、その他のスポーツ	668
五、苦小牧体育協会と体育施設	671
六、報道機関	676
第六節 娯楽と観光	685
一、劇場の変遷	685
二、その他の娯楽遊戯施設	691
三、観光	692

第二章 社会と宗教	711
第一節 社会と労働	711
一、戦前における社会福祉	711
二、戦後の社会福祉行政	720
三、社会福祉施設	726
四、社会福祉団体と町内会	734
五、労働	739
第二節 宗教	800
一、序説	800
二、神社と弁天社・不動尊	806
三、寺院	824
四、キリスト教会	845
五、宗教団体と教派・神道	862
第三章 衛生と医療	869
第一節 衛生	869
一、衛生委員と衛生組合	869
二、公的ゴミ処理の変遷	878
三、墓地と火葬場	904
第二節 医療機関と施設	921
一、公立病院の変遷	921

二、各病院・医療機関の沿革

第九編 交通・通信史

第一章 交通

第一節 海上・河川交通

一、河川交通

二、海上交通

第二節 陸上・道路交通

一、明治初期の陸上交通

二、駅通制度

三、勇払三角測量基点

四、道路整備と自動車の発達

五、戦前における市街地交通機関

六、市営バス

七、他のバス事業

八、ハイヤー・タクシー

九、運送店

第三節 鉄道

一、炭砒鉄道と室蘭線

二、国有鉄道室蘭本線

1109 1102 1102 1098 1094 1093 1073 1072 1058 1053 1039 1027 1027 1020 1017 1017 1017 1015 984

三、王子製紙の鉄道事業	1122
四、各私設線の国有買収とその後	1148
五、苫小牧操車場と臨港鉄道	1155
六、市内各駅の沿革	1160
七、構内機関の沿革	1177
八、駅構内立売り、駅弁と待合	1184
第四節 航空	1187
一、飛行場の設置	1187
二、民間航空の発達	1189
第二章 通信	1191
第一節 郵便事業	1191
一、郵便取扱所	1191
二、根室路線の開通と苫小牧郵便局	1197
三、三等郵便局	1211
四、二等郵便局と普通郵便局	1213
第二節 電信電話と放送	1229
一、電信	1229
二、電話	1239
三、ラジオとテレビ	1250

第一〇 編 公安・災害史

第一章 公安

第一節 警察

一、明治初期の警察

二、戦前における警察署の変遷

三、戦後の警察機構の改革

第二節 消防

一、消防組

二、警防団

三、消防団と消防本部・消防署

第三節 司法

一、苫小牧簡易裁判所

二、苫小牧区検察庁

三、札幌法務局苫小牧出張所と司法関係機関

第二章 災害

第一節 火災

一、主な大火記録

二、苫小牧における主要火災状況一覧表

第二節 気象災害とその他の災害

一、水害と地震

1354 1354 1350 1323 1323 1323 1320 1319 1314 1314 1299 1293 1274 1274 1265 1259 1257 1257 1257 1255

二、その他の災害……………	1374
第一編 港湾・建設史……………	1381
第一章 苫小牧港と勇払原野……………	1383
第一節 苫小牧港の沿革……………	1383
一、勇払川河口の港利用……………	1383
二、勇払築港論……………	1388
三、苫小牧漁港と試験工事……………	1397
四、勇払工業港の修築計画……………	1412
五、港湾築設運動の再開……………	1435
第二節 苫小牧港の修築事業……………	1446
一、苫小牧港起工式……………	1446
二、築港計画の変遷……………	1452
三、北海道開発庁策定の工業港……………	1474
第三節 苫小牧港の開港とその充実……………	1495
一、入船式と開港式……………	1495
二、苫小牧港の整備と充実……………	1505
三、港勢と港湾関係機関……………	1536
四、苫小牧東港の概要……………	1540
第二章 都市計画と土地造成……………	1551
第一節 都市計画……………	1551

一、初期の都市計画	1551
二、用途地域の決定	1554
第二節 区画整理と土地造成	1558
一、区画整理	1558
二、土地造成	1561
三、住宅建設	1565
第三章 公営企業の変遷	1573
第一節 概説	1573
一、戦前における公営企業	1573
二、戦後における公営企業	1574
第二節 電気事業	1575
一、組合組織による電気事業	1576
二、町(村)営電気事業	1580
三、配電統合譲渡と復活運動	1606
第三節 上下水道事業とその他の事業	1617
一、上水道の布設	1617
二、下水道事業	1631
三、その他の事業	1635
付編 部落史	1647
勇 弘	1649

樽前	1711
錦岡(覚生)	1771
糸井	1805
弁天	1825
静川	1847
柏原	1861
植苗(美々)	1891
沼ノ端	1925
丸山	1941
編さん過程と編集後記	1977
●題字 二階堂北翠(北海道書道展・創玄書道審査員)	
〔表〕 苫小牧町案内図(昭和九年 苫小牧商工会発行)	
〔裏〕 苫小牧市街地航空写真(昭和五十一年)(志方孝之氏蔵)	
見返し 〔苫小牧市史編さん室蔵〕	

